2027年３月期 第２四半期
決算説明資料

Aiロボティクス株式会社
2026年11月
証券コード：247A

- エグゼクティブサマリー
- 2027年３月期 第２四半期決算概要
- 2027年３月期 通期業績予想の修正
- 下期の取組み
- APPENDIX

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

決算概要	• 売上高は前年同期（単体）比+115.5%の227億円、Yunth、Brighte、BJCが牽引 • 営業利益は上期累計で黒字を確保、 ２Q単独で6.2億円を計上
通期業績予想修正	• 新ブランドの発売延期及びStraineの下振れを受け、通期予想を下方修正 • 売上高は520億円（前期比+77.1%）、営業利益は60億円（前期比+57.8%）
下期の取組み	• 販路の拡大：店頭・コンビニで国内の販路を広げ、米国はAmazonで販売を開始 • 商品ブランドの強化：美顔器「Deep Boost」と新SKUで、スキンケアとの併用を促す • BJCとのシナジー：サロン専売モデルの発売、EC伸長、物流拠点の一部統合でコスト削減

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

Yunth・Brighte・BJC・販路拡大の4つの成長の柱は、上期実績でも継続
修正の主因は新ブランドの発売延期とStraineの下振れ、売上高520億円・営業利益60億円を計画

成長が続く領域

Yunth / Brighte
売上成長が継続

Yunth ＋24.8%
Brighte ＋100.1%
上期売上高（前年同期比）

BJC
計画通りに進捗

68.6億円
上期売上高

ECから店頭・サロンへ
販路が拡大

約4.6倍※
店頭卸売上高（前年同期比）

計画を見直す領域

新ブランド
発売時期
下期発売 ▶ 延期
販売戦略の見直し

Straine
通期売上計画
60億円 ▶ 20億円
粗利率の前提も
あわせて見直し

修正後の通期業績予想
当初予想 ▶ 修正後

売上高　前期比 +77.1%
560～600億円 ▶ 520億円

営業利益　前期比 +57.8%
75～100億円 ▶ 60億円

※店頭卸の約4.6倍はBJC連結の効果を含む（2026年３月期２Qは単体、2027年３月期２Qは連結）

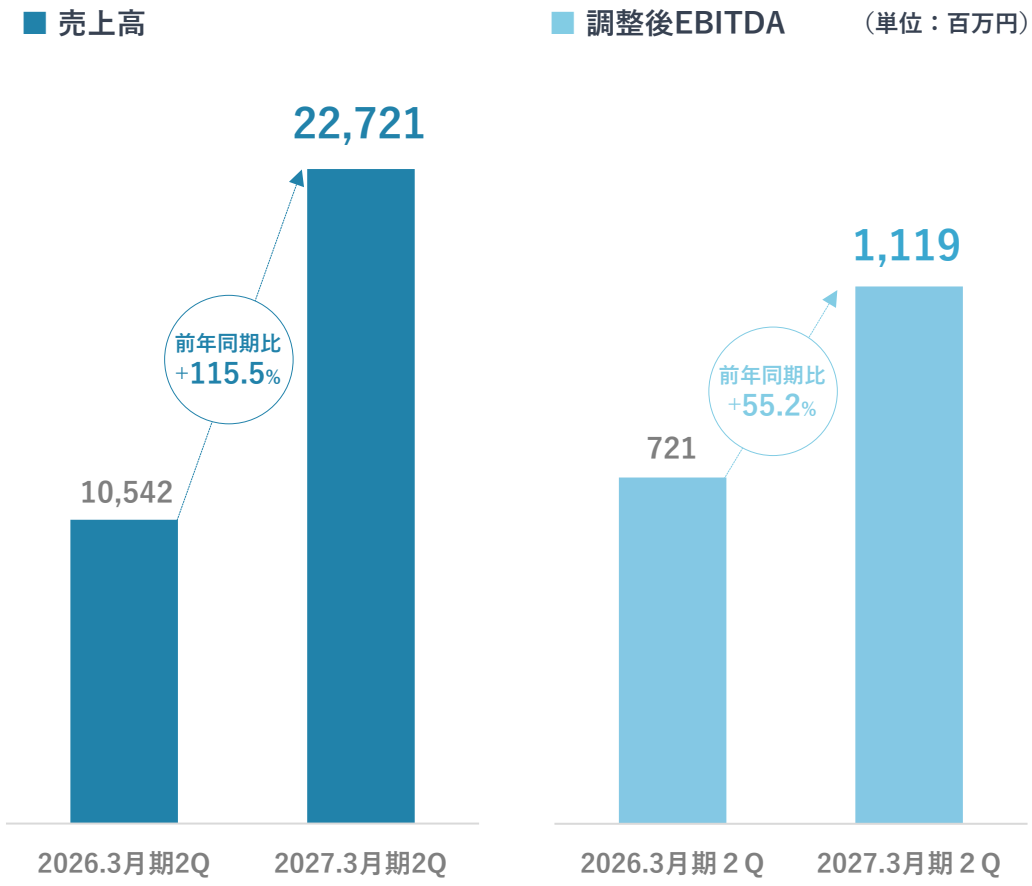
Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

- エグゼクティブサマリー
- **2027年３月期 第２四半期決算概要**
- 2027年３月期 通期業績予想の修正
- 下期の取組み
- APPENDIX

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

売上高はYunth・Brighte・BJCが牽引し、前年同期比+115.5%の22,721百万円
営業損益は１Qの損失を２Qで取り戻し、上期累計で93百万円の黒字を確保

累計期間実績（単位：百万円）	2026.3月期２Q（単体）	2027.3月期２Q（連結）	前年同期比
売上高	10,542	22,721	＋115.5 %
売上総利益	7,991	14,336	＋79.4 %
売上総利益率	75.8%	63.1%	▲12.7 pt
販管費	7,290	14,242	＋95.4 %
販管費率	69.2%	62.7%	▲6.5 pt
営業損益	701	93	▲86.7 %
営業利益率	6.6%	0.4%	▲6.2 pt
経常損益※１	686	▲319	-
中間純損益	468	▲534	-
調整後指標			
調整後EBITDA※２	721	1,119	＋55.2 %
調整後EBITDA率	6.8%	4.9%	▲1.9 pt
調整後中間純利益※３	468	410	▲12.4 %

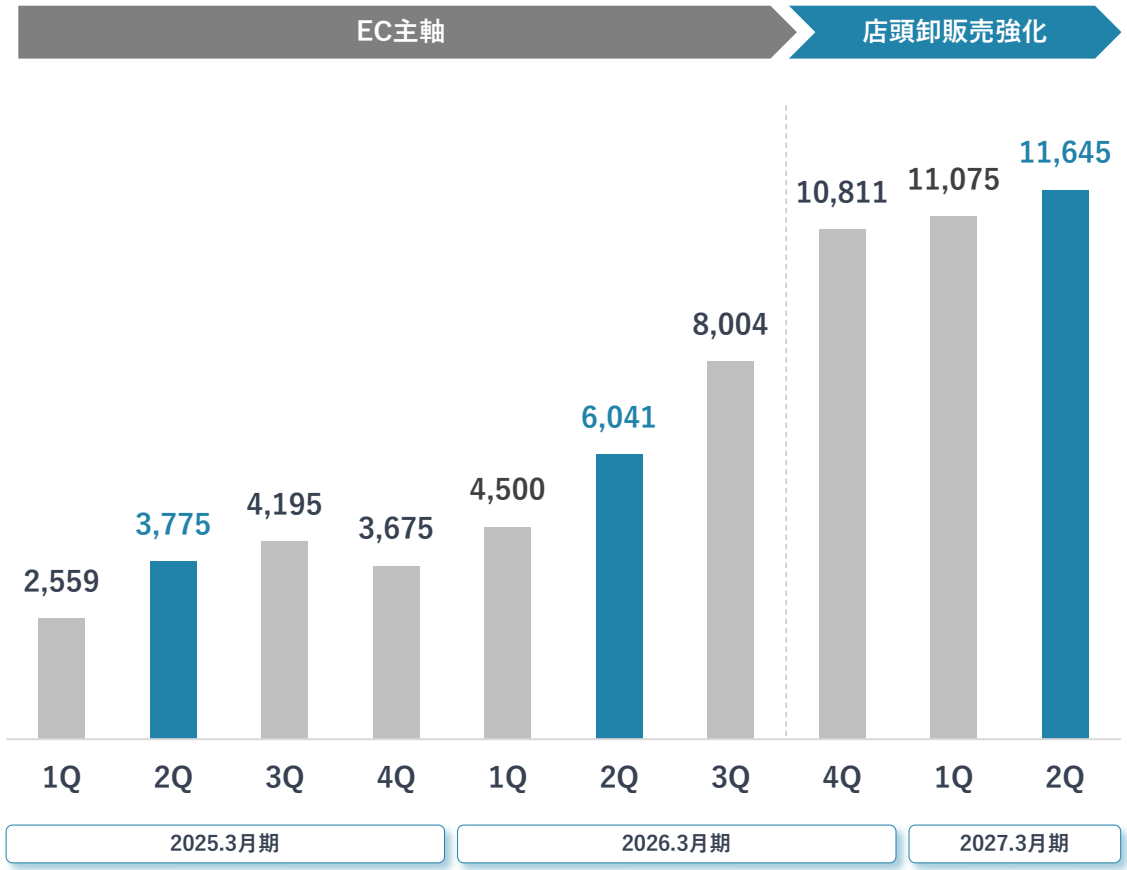


※１：経常損益は営業損益に営業外損益を加減したもの。営業損益との差額▲412百万円は、主にM&Aに伴う資金調達に係る支払利息および融資手数料によるもの
※２：営業利益＋減価償却費＋M&Aに伴うのれん等償却費（長期前払費用償却含む）＋M&A関連費用
※３：親会社株主に帰属する中間純損益＋M&Aに伴うのれん等償却費＋M&A関連費用

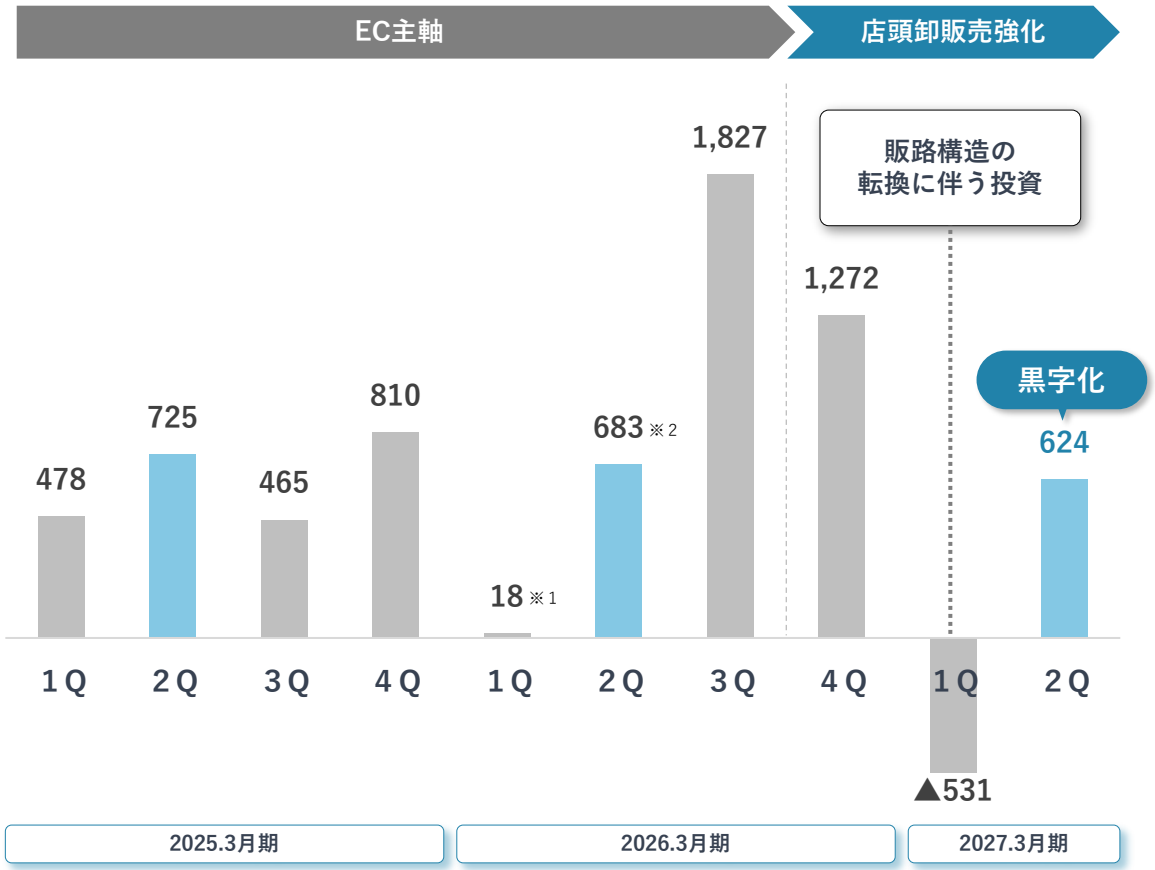
Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

売上高は店頭卸への転換効果により伸長
営業利益は２Q単独で624百万円を計上し、構造転換投資による１Qの損失を回収

売上高推移（単位：百万円）



営業利益推移（単位：百万円）

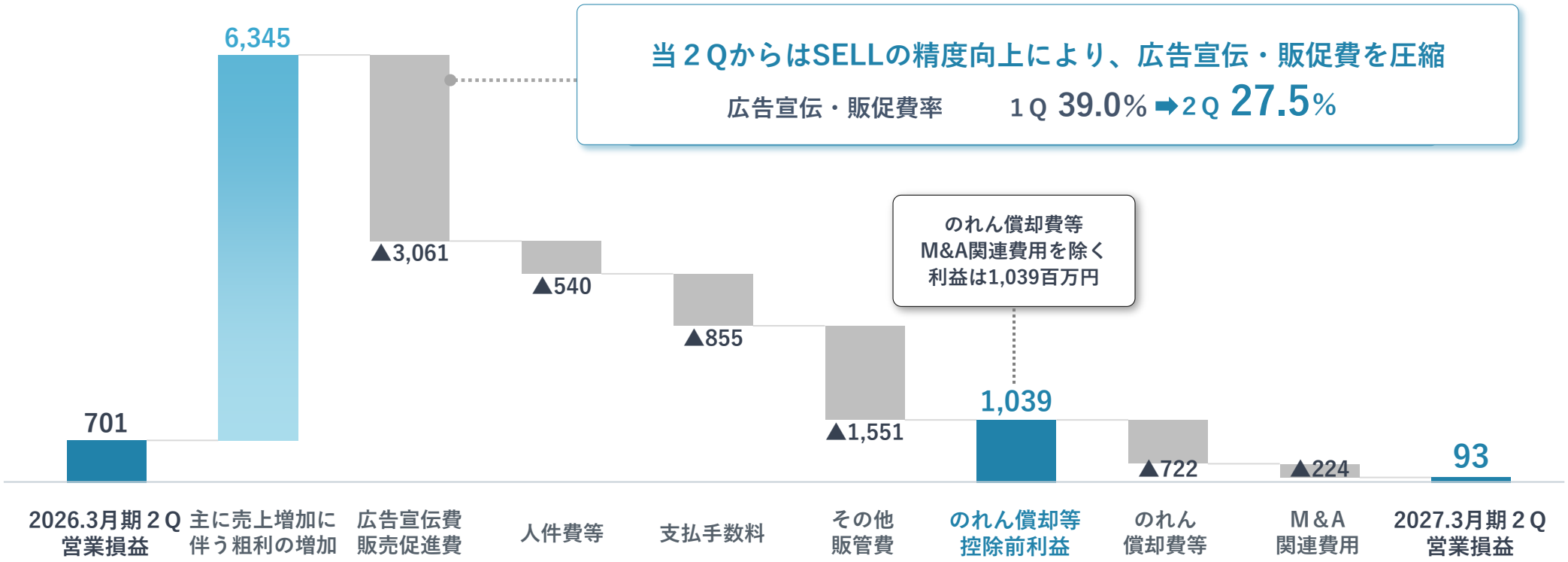


※１：「Yunth」の新規顧客獲得強化のための広告投資と「SHOWER DRYER」へのプロモーション投資の結果
※２：主に「Straine」へのプロモーション投資の結果

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

売上高の伸長により粗利は6,345百万円増加
SELLのマーケティング精度の向上に伴い広告宣伝・販促費率が低下し、利益を押し上げ

営業損益増減分析（単位：百万円）

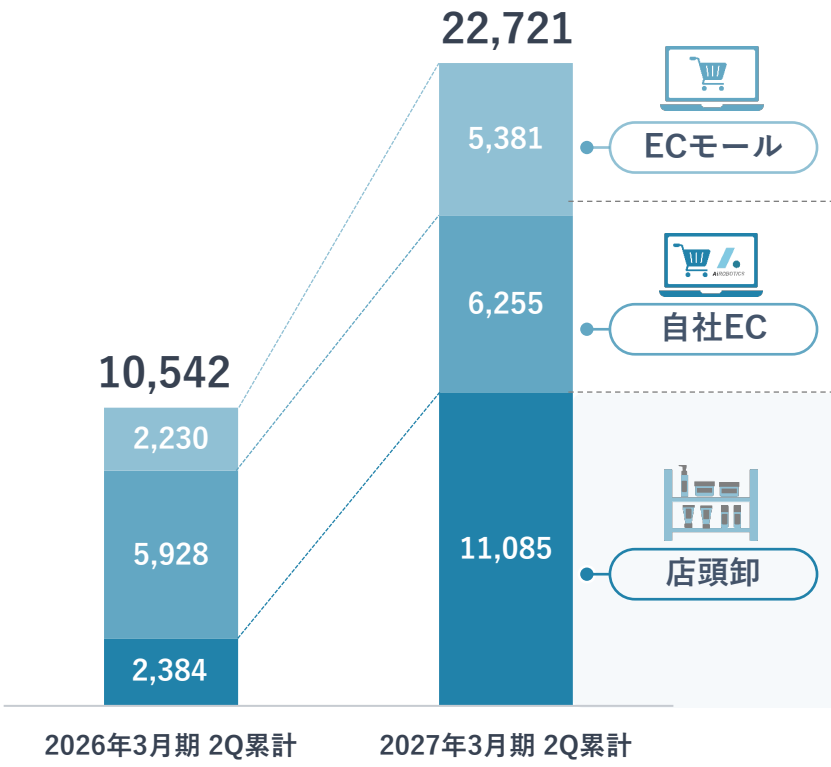


※2026年３月期２Qは単体、2027年３月期２Qは連結

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

店頭卸が前年同期比約4.6倍に伸び、売上全体の49%を占める柱に成長
EC販路も伸び、売上高全体は約2.2倍の22,721百万円に拡大

販路別売上高（百万円）



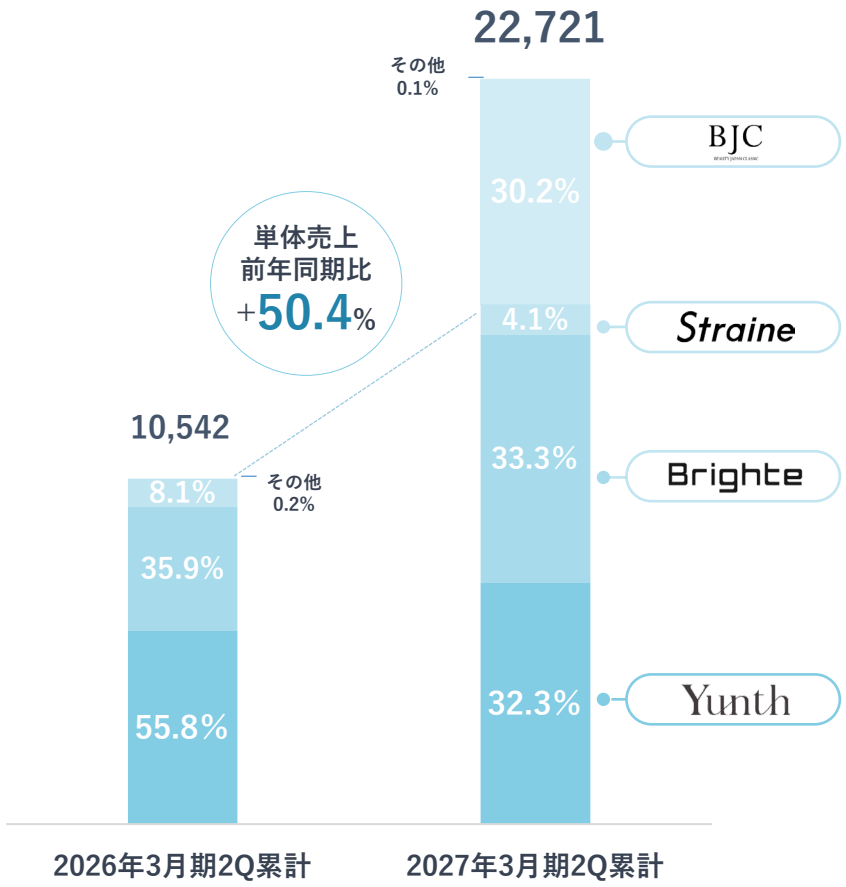
	前年同期比	
ECモール	約2.4倍	売上高 2,230 → 5,381 百万円 構成比 21% → 23% ▶ 当社・BJC商品がともに伸長
自社EC	+6%	売上高 5,928 → 6,255 百万円 構成比 56% → 28% ▶ 販売の基盤として安定的に推移
店頭卸	約4.6倍	売上高 2,384 → 11,085 百万円 構成比 23% → 49% ▶ 売上の約半分を占める柱に成長

※百万円未満切捨て。
※店頭卸の約4.6倍はBJC連結の効果を含む（2026年３月期２Qは単体、2027年３月期２Qは連結）

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

BrighteのELEKI LIFTとBJCのLashaddictが上期業績を牽引
Yunthではシートマスクが好調に推移し、全体的に増収

ブランド別売上構成比（単位：百万円）



ブランド別実績（単位：百万円）

		2026.3月期 2Q累計	2027.3月期 2Q累計	前年同期比
Yunth	売上高	5,887	7,346	+24.8 %
	売上総利益	4,532	5,045	+11.3 %
	売上総利益率	77.0%	68.7%	▲8.3 pt
Brighte	売上高	3,783	7,569	+100.1 %
	売上総利益	2,943	5,007	+70.1 %
	売上総利益率	77.8%	66.2%	▲11.6 pt
Straine	売上高	854	927	+8.5 %
	売上総利益	502	299	▲40.4 %
	売上総利益率	58.8%	32.3%	▲26.5 pt
BJC	売上高	5,537	6,865	+24.0 %
	売上総利益	-	3,966	-
	売上総利益率	-	57.8%	-

前期４Qにリニューアル品の初回出荷が集中、上期において継続購入が想定に至らず
初期ラインの価格見直しにより売上総利益率が大幅に低下

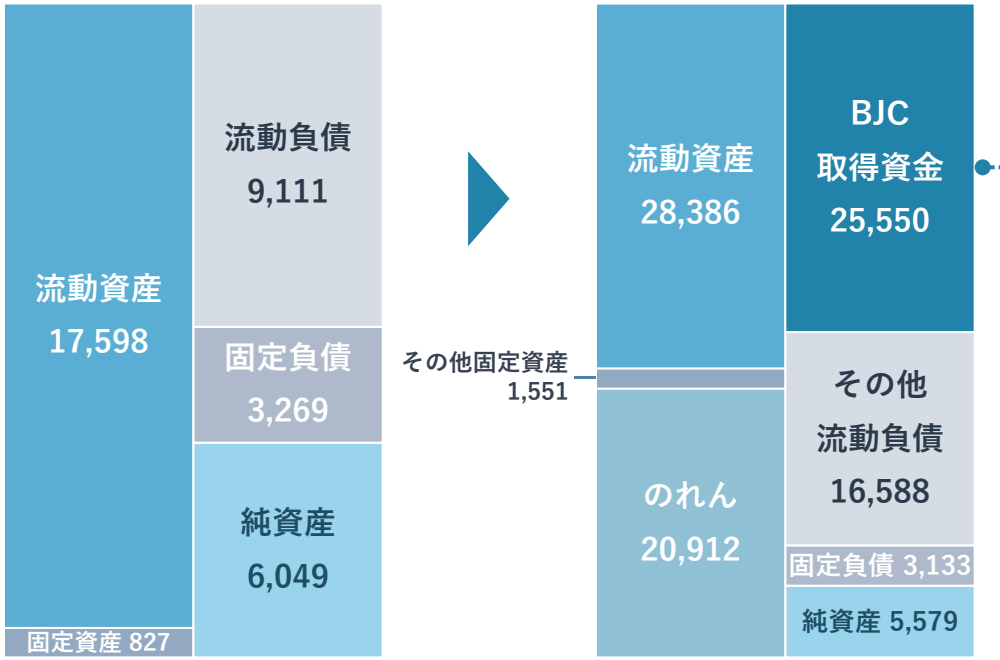
※BJCの2026年３月期２Q累計数値は当社グループイン前の実績（参考値）

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

BJC株式の取得資金を短期借入で調達し、総資産は50,851百万円に拡大
のれん計上により自己資本比率は11.0%に低下、一部を長期借入へ借換え

総資産	のれん(暫定数値)	自己資本比率	現金及び現金同等物
50,851 百万円	20,912 百万円	11.0 %	9,007 百万円
2026.3月期（単体）18,431	BJC株式の取得に伴い計上	2026.3月期（単体）32.8%	期首残高 3,987

貸借対照表の変化（単位：百万円）



BJC取得資金 25,550百万円の借換状況

15,000百万円 長期借換済

2026年10月8日にみずほ銀行・りそな銀行・SBI新生銀行・日本政策金融公庫からの長期借入により借換え

10,550百万円 協議継続中

みずほ銀行を含む複数先より提案を受領

弁済期限延長の目的	最適な資金調達方法を検討するため
業績への影響	2027年３月期の連結業績に影響なし

※百万円未満切捨て

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

- エグゼクティブサマリー
- 2027年３月期 第２四半期決算概要
- **2027年３月期 通期業績予想の修正**
- 下期の取組み
- APPENDIX

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

新ブランドの発売延期とStraineの下振れを織り込み、通期業績予想を下方修正
新ブランドは販売戦略を見直し、下期の発売を延期

（単位：百万円）	2026.3月期（実績）	2027.3月期（修正連結予想）	前期実績比	2027.3月期（当初連結予想）	当初予想比
売上高	29,359	52,000	+22,641 +77.1%	56,000～60,000	▲4,000～▲8,000
営業利益	3,802	6,000	+2,198 +57.8%	7,500～10,000	▲1,500～▲4,000
調整後EBITDA※1	3,850	8,000	+4,150 +107.8%	9,500～12,000	▲1,500～▲4,000
調整後当期純利益※2	2,654	4,300	+1,646 +62.0%	5,900～7,400	▲1,600～▲3,100

※１：営業利益＋減価償却費＋M&Aに伴うのれん等償却費（長期前払費用償却含む）＋M&A関連費用
※２：親会社株主に帰属する当期純損益＋M&Aに伴うのれん等償却費＋M&A関連費用

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

EC起点ブランドであるYunth・Brighteは順調に推移、子会社化したBJCも想定通り進捗
オフライン起点のStraineは、売上高の下振れ及び初期ラインの価格見直しにより売上総利益率の低下を見込む

Yunthの進捗率については、主に下期発売の新商品の積み上げによる下期偏重の計画

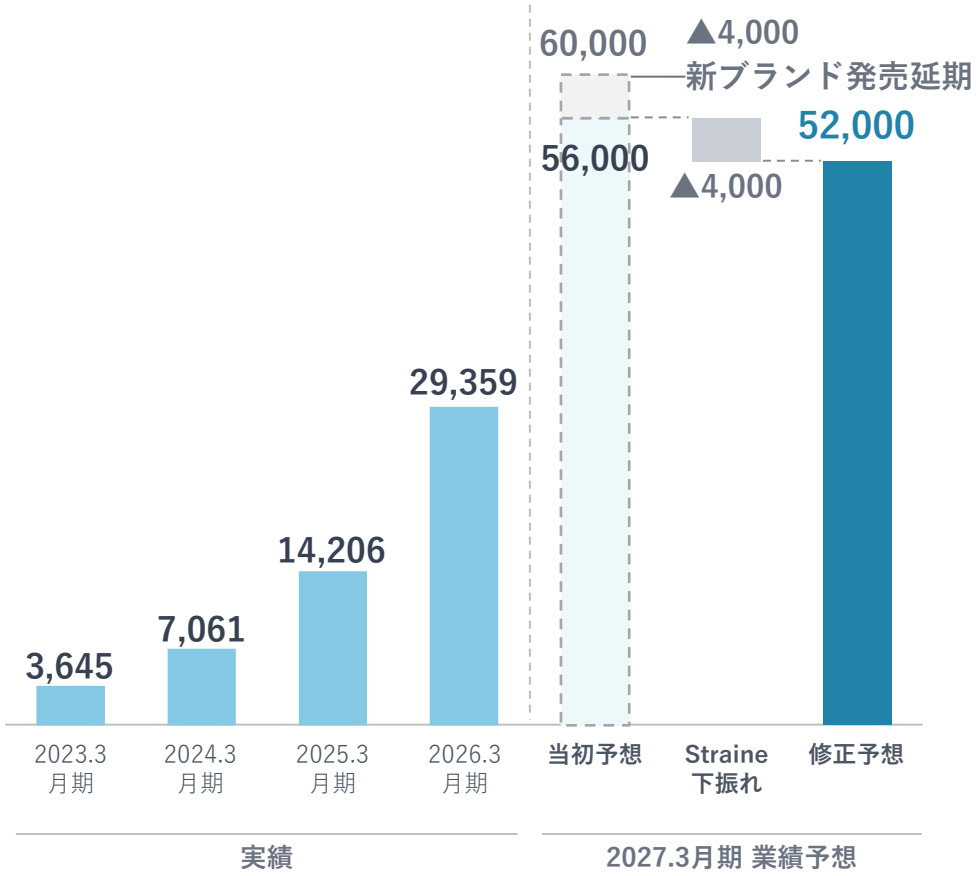
（単位：百万円）

		当初計画	修正計画	増減額	２Q累計実績	進捗率
Yunth	売上高	20,000	20,000	±0	7,346	36.7%
	売上総利益	14,000	14,000	±0	5,045	36.0%
	売上総利益率	70.0%	70.0%	±0pt	68.7%	―
Brighte	売上高	15,000	15,000	±0	7,569	50.5%
	売上総利益	9,700	9,700	±0	5,007	51.6%
	売上総利益率	64.7%	64.7%	±0pt	66.2%	―
Straine	売上高	6,000	2,000	▲4,000	927	46.4%
	売上総利益	3,700	1,000	▲2,700	299	29.9%
	売上総利益率	61.7%	50.0%	▲11.7pt	32.3%	―
BJC	売上高	15,000	15,000	±0	6,865	45.8%
	売上総利益	8,600	8,600	±0	3,966	46.1%
	売上総利益率	57.3%	57.3%	±0pt	57.8%	―

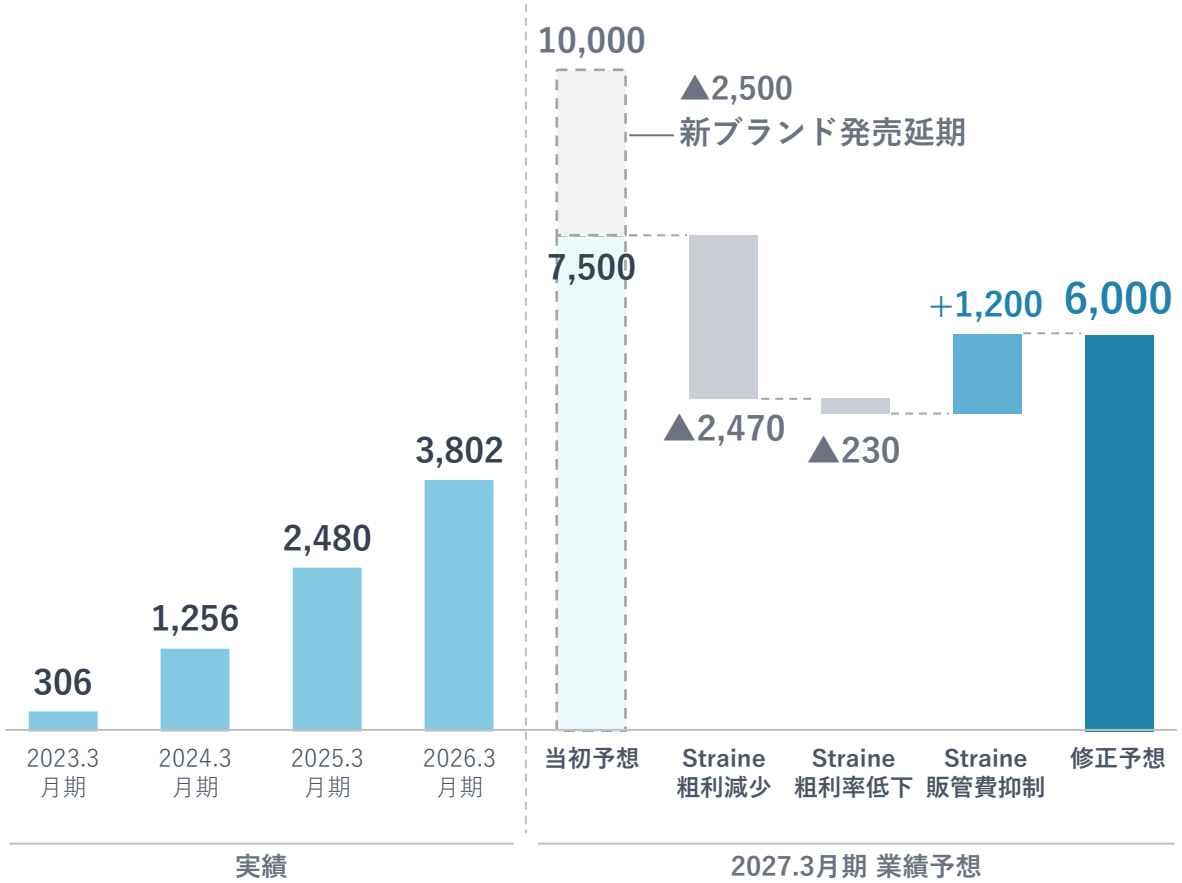
Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

通期予想を売上高52,000百万円、営業利益6,000百万円へ下方修正するも、前期比77%増収・58%増益を見込む
修正の主因は新ブランドの発売延期とStraineの下振れ

売上高の推移と2027.3月期予想の増減（単位：百万円）



営業利益の推移と2027.3月期予想の増減（単位：百万円）



Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

ECでの需要検証前の店頭展開とライン刷新時期の判断が、上期の下振れ要因
下期はリニューアル品への一本化で立て直し、通期計画2,000百万円の達成を見込む

展開モデルの違い

	EC起点モデル（Yunth / Brighte）	卸起点モデル（Straine）
ECで先行販売	EC・モールで先行展開	自社ECでの需要検証を経ずに店頭へ 理由：シャンプー・トリートメントの主戦場である店頭卸を起点に展開
販売データで需要を検証	継続購入データで見極め	
商品・訴求を磨き込み	SKU拡充・新モデル投入	
店頭卸へ展開	段階的に店頭卸へ拡大	店頭卸から一斉に展開
店頭で継続購入	**継続購入を再現**	想定に至らず

リニューアルと初期ラインによる影響

要因 卸からの初期発注に合わせ初期ラインを生産

自社ECでの需要検証を経ず、店頭の初動がそのまま継続購入につながると想定

要因 売り切る前にリニューアルを決定

初期ラインの継続購入が定着したかを確認する前に、刷新を判断

影響 初期ラインの残在庫が値引き販売へ　売上・粗利率 ↓

在庫消化のための価格見直しにより、販売単価が下落

影響 初期ラインとリニューアル品が店頭で併存　売上 ↓

リニューアル品投入後も安価な初期ラインが店頭に併存し、売上の積み上がりが鈍化

下期計画の蓋然性

初期ラインは完売
自社残在庫は消化完了
販売単価が正常化

▶

リニューアル品への一本化
店頭棚の移行が完了し、
購入がリニューアル品に集約

▶

修正計画はリニューアル品が現状通り推移すれば届く水準

通期計画：2,000 百万円
前期実績（2,595）比▲23%

下期計画：1,073 百万円
上期実績（927）比+16%

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

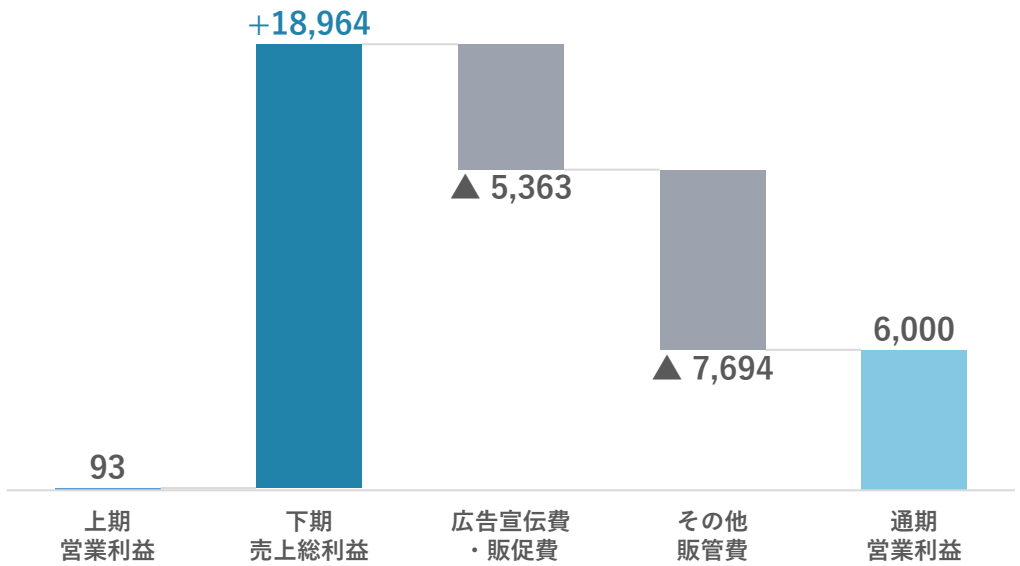
下期は売上高29,279百万円・営業利益5,907百万円を計画
上期実績に下期の利益を積み上げ、通期営業利益6,000百万円を達成する

（単位：百万円、下期＝修正予想－上期実績）

2027年３月期 通期修正予想の上期・下期内訳

	通期修正予想	上期実績	下期計画
売上高	52,000	22,721	29,279
広告宣伝費・販促費	12,883	7,520	5,363
営業利益	6,000	93	5,907

通期営業利益6,000百万円への積み上げ



各項目の蓋然性は次ページ

※下期計画＝2027年３月期 通期修正連結予想 － 上期実績。グラフの売上総利益・広告宣伝費・販促費・その他販管費は下期の金額。

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

下期は売上の伸びを前期の半分以下、全体の粗利率はYunthの構成比上昇で64.8%を計画
利益改善の柱となる広告宣伝費・販促費の削減は、９月に計画水準へ到達済み

下期営業利益 5,907百万円の達成に必要な要素

（単位：百万円、下期＝修正予想－上期実績）

① 売上高	×	② 売上総利益率	−	③ 広告宣伝費・販促費	−	その他販管費	＝	下期 営業利益
29,279		64.8%		5,363		約7,700		5,907
四半期平均で２Q比+26%		Yunthの構成比上昇で改善		月平均894　９月実績817		上期比+14%		通期予想6,000 － 上期実績93

① 売上の伸びは前期の半分以下

前期実績（２Q比） +56%

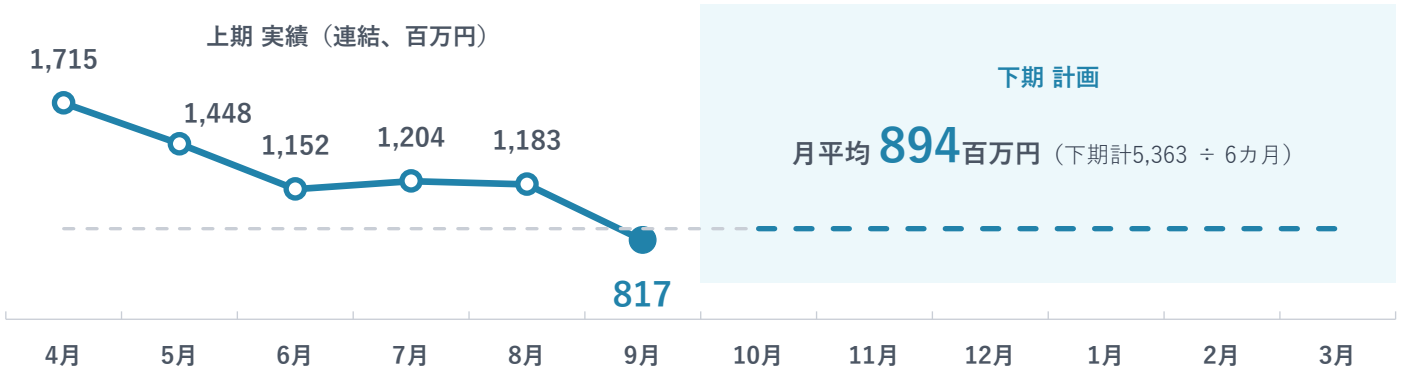
下期計画（２Q比） +26%

② 粗利率はYunthの構成比上昇で改善

上期実績 63.1%

下期計画 64.8%

③ 広告宣伝費・販促費は９月に計画水準へ、９月単月の利益率は23.3%



９月単月と下期計画（月平均）の比較（連結、百万円）

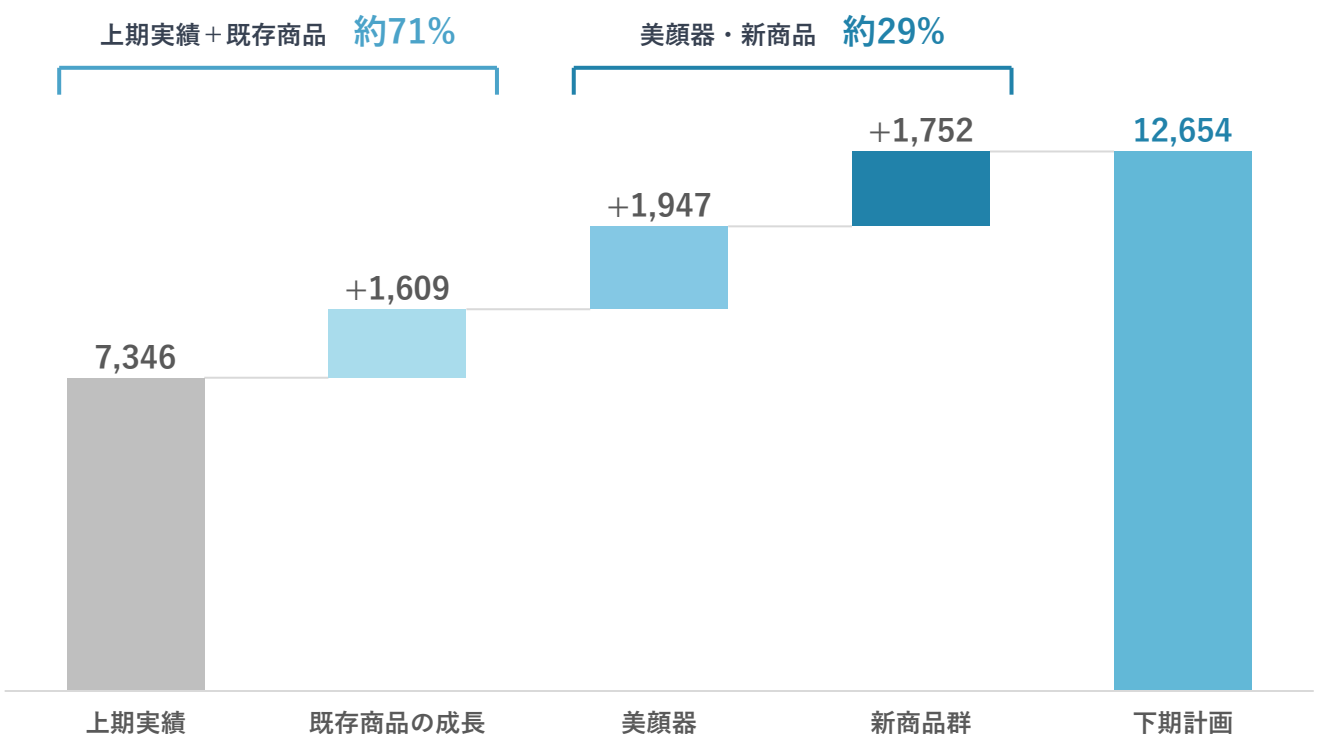
	売上高	営業利益	営業利益率
９月 単月実績	6,230	1,452	23.3%
下期計画 月平均	4,880	985	20.2%

※下期＝2027年３月期 通期修正連結予想 － 上期実績。月次は連結実績。売上高の伸びは下期四半期平均の２Q比（前期は単体）。その他販管費は売上総利益から逆算
※９月単月は参考として開示（月次開示を定例化するものではない）。９月は秋の棚替え期にあたる。下期計画の月平均＝下期計画÷６

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

Yunthの下期は10月に一般発売した美顔器と新商品群の投入で積み上げ
既存商品の成長率は前年に対して前期並みに設定

Yunth下期売上 12,654百万円の構成（百万円）



① 既存商品の成長率は前期同程度に見込む

上期→下期の売上成長率

前期 ×約1.21

今期 既存商品 ×約1.22

② 下期の主な施策

美顔器	Deep Boost 一般発売 ECを中心に販売	10月～
新商品群	シートマスクBOX（大容量）	10月～
	マスク新シリーズ	12～1月発売予定
	フェイスミスト	12～1月発売予定
	その他 新商品・施策	順次展開

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

- エグゼクティブサマリー
- 2027年３月期 第２四半期決算概要
- 2027年３月期 通期業績予想の修正
- **下期の取組み**
- APPENDIX

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

販路の拡大・商品ブランドの強化・BJCとのシナジーの３本柱で
下期の売上拡大と修正予想の達成を目指す

01
販路の拡大

約16,600店舗
Yunth取扱店舗数（２Q時点）

ファミリーマートで販売開始

米国Amazon、TikTok Shopでの販売

詳細 P22～24 ›

02
商品ブランドの強化

1,000万個
Yunth美容液シリーズ累計販売個数

美顔器「Deep Boost」を一般発売

SPICARE「V3」シリーズに新商品

詳細 P25～28 ›

03
BJCとのシナジー

ベストセラー 1 位
Amazonプライム感謝祭
カテゴリランキング

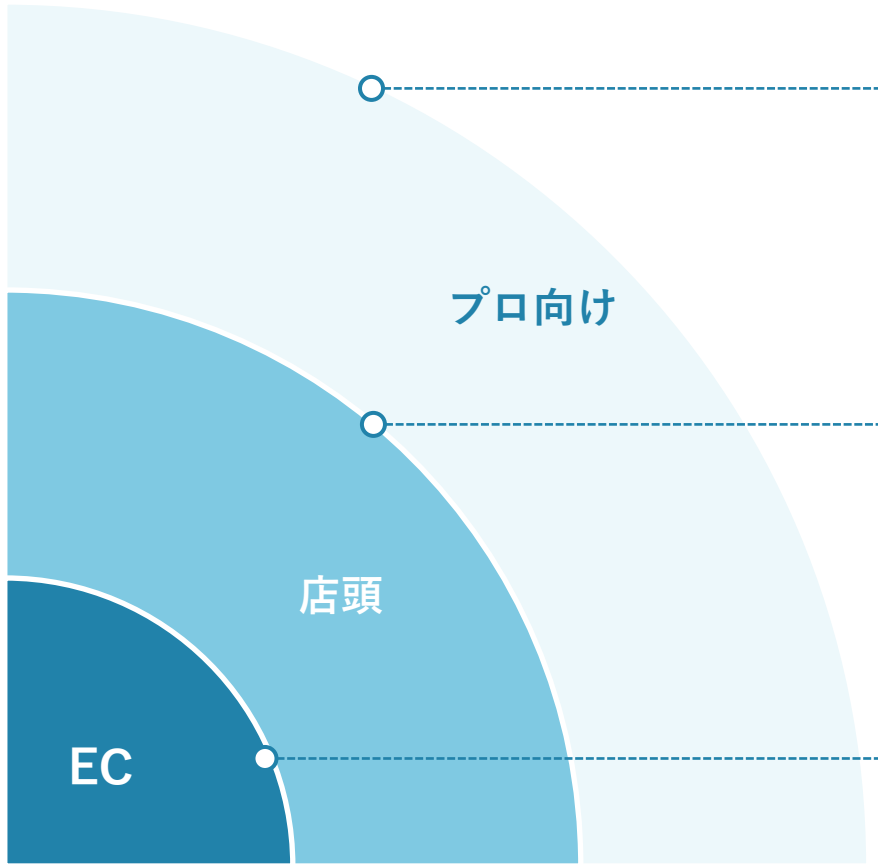
BJC販路でサロン専売モデルを発売

物流拠点の一部統合でコスト最適化

詳細 P29～33 ›

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

EC発のブランドは、ECで需要とデータを確かめてから店頭へ広げ、成功率を高める
下期はこの流れで、コンビニ・サロンなど新たな販路の顧客接点を伸ばす



理美容室などプロ向け

理美容室・
各種サロン

約４万店舗

BJCサロンネットワーク

国内ターゲット
約８万店舗

一般消費者向け（店頭）

ドラッグストア／
バラエティ／家電量販

約16,600店舗

Yunth取扱店舗数
（２Q時点）

国内ターゲット
約36,830店舗

コンビニ

ファミリーマート

2026年９月～
全国で順次展開

Yunth初の
コンビニ展開

販売の基盤

自社EC・ECモール（楽天・Amazon・Qoo10 等）

引き続き認知拡大・販売の基盤として継続

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

Yunthの人気生美容液シートマスク「Pure Mask」から「ピュアCマスク」「ピュアAZマスク」の２種を
全国のファミリーマートで９月25日より順次発売、コンビニという新たな購買動線で顧客接点を拡大

2026年９月25日～

大人気のYunth生美容液シートマスクシリーズ

Yunth史上最大量※1の美容成分配合を実現したデイリーマスク
美容液をたっぷり含んだシートが肌に密着し、うるおいを与えながら、
透明感※2のある肌へ導きます。
今回ファミリーマートで取り扱いを開始するアイテムは、シリーズの中でも
人気の高い「ピュアCマスク」と「ピュアAZマスク」の２商品となります。



Yunth
生美容液シートマスク



「ピュアCマスク」

紫外線を浴びた翌朝も
くすみ気にならないク
リア肌へ

約 8,400店舗 にて
お取り扱い開始



「ピュアAZマスク」

毛穴が目立つ肌を引き
締め、健やかな肌へ

約 1,700店舗 にて
お取り扱い開始

既存顧客の日常的なリピート購買も促進

※１：2026年３月時点Yunth商品において　※２：うるおいによる

※一部の地域および店舗では取り扱いのない商品がございます

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

Amazon USの立上げが完了し、米国のEC販路での販売を開始
今期はECで需要を確かめ、来期の本格展開に向けて体制を整える

米国展開の進捗



今後の予定

TikTok Shopでの販売開始 — 予定
年内に開始予定

一般流通への本格展開 — 今後
ECでの販売実績を検証したうえで判断

下期の進め方

- ECで需要とデータを蓄積し、売れる商品・訴求を見極め
- 広告効果（ROI等）を検証しながら、販管費を段階的に配分
- 来期の本格展開に向けて、運営体制の整備を進める

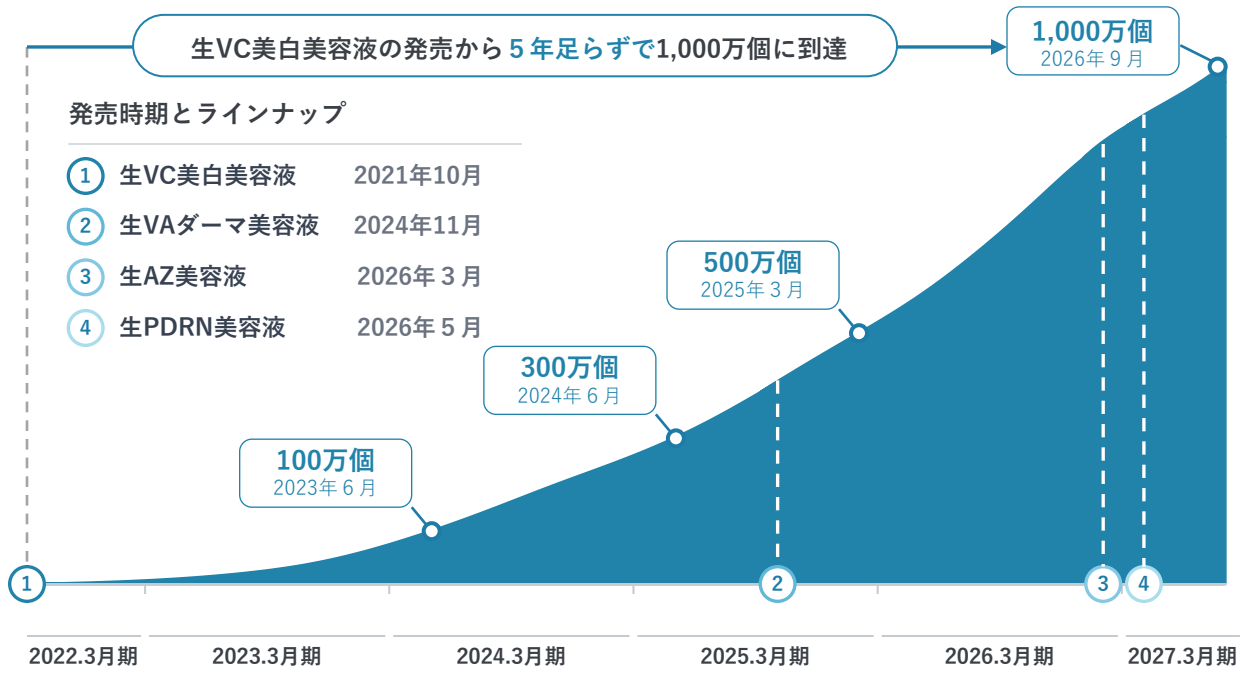
展開の方針	ECで売れる商品・訴求と広告効果を検証して勝ち筋を固めたうえで、本格的に一般流通へ展開する
業績予想への織り込み	今期は来期の本格展開に向けた準備の年と位置づけ、売上・利益は通期修正予想には織り込んでいない

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

発売以来、多くのお客さまにご支持いただき、「Yunth」が５周年を迎え
美容液シリーズの累計販売個数が1,000万個を突破



累計販売個数の推移　（月末時点・イメージ）



Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

上期はコンビニ・サロン向けなど新たな販路を開拓し、「Deep Boost」の先行販売で商品ラインナップを拡充
下期は新商品を連続投入し、年末商戦・イベント需要で販売拡大を図る

上期（4～9月）

4月 5月 6月 7月 8月 9月



4/1～
Yunth
Pure Maskシリーズ



6/5～
Yunth
生PDRNライン



7/9～
Yunth
クッションファンデーション

下期（10～3月）

10月 11月 12月 1月 2月 3月

年末商戦・イベント需要

棚替え・新商品の配荷

10/1～発売※1



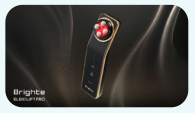
Yunth
「Deep Boost」一般発売



Yunth
シートマスク BOX(大容量)



Yunth
ホリデーコレクション2026



Brighte
ELEKI LIFT PRO

12月～1月発売予定

Yunth
フェイスミスト

Yunth
マスク新シリーズ

2/9～発売



SPICARE
V3 プリスティン
ファンデーション

下期

Brighte
サロン専売シリーズ

Brighte
ヘアケア商品

Brighte
ボディケア商品

その他も新商品を
順次展開予定

前年との違い

店頭・コンビニ・サロンへの販路拡大と新SKUの増加で、年末商戦・3月の棚替えでの伸びしろは前年より大きい

※1 ELEKI LIFT PROは、9/30より順次発売
※2 発売時期は予定であり、変更となる可能性があります

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

美容デバイスを起点としたリピート購入モデルの構築
顧客数の拡大だけでなく、１人当たりの顧客価値を高めることで、継続的な収益成長を実現



美容デバイスの高い効果×既存スキンケア商品の魅力
美容デバイスの販売により既存・新規スキンケア商品の売上押し上げ効果が見込まれる

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

SPICAREの主力「V3ファンデーションシリーズ」に、第５弾となる新商品を投入
高密着処方で、「きちんとカバーしたい」という新たなニーズに対応

2027年２月９日～

シリーズ累計販売数710万個※１を突破したSPICAREの「V3ファンデーション」から、シリーズ最高傑作※２となる「V3 プリスティン ファンデーション」が登場

シリーズが培ってきたHARI※３美容の独自技術を活かし、「肌を整え、守り、魅せる」という発想でスキンケアの一歩先を追求。
メイクをしながら肌コンディションを整えるファンデーション



容量・UV　15g｜SPF50+・PA+++
価格（税込）　本体 9,900円／レフィル 8,800円

商品特長

01　進化したHARI※３処方

役割の異なる２種のHARI※３を、シリーズで初めて採用

守るHARI
カルノシン配合
×
満たすHARI
レスベラトロール配合

02　シリーズ最高レベル※４の密着

板状TiO2※５が肌表面に均一に整列し、白浮きせず崩れにくい仕上がりに



03　カラー１色・セミグロウ

幅広い肌色になじむ「カラーフィット処方」を採用。付属パフで塗るだけで、厚塗り感なく毛穴や色むらを自然にカバー

04　多角的な整肌成分

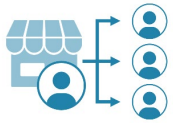
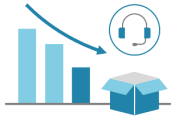
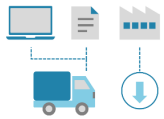
リポソーム化した独自成分CCGF®800※６に、PDRN※７などの整肌成分を配合



※１：2026年８月末時点　※２：V3ファンデーションシリーズ史上　※３：シリカ（整肌）　※４：V3ファンデーションシリーズにおいて　※５：酸化チタン（UV反射剤）
※６：エルゴチオネイン、チオクト酸、パルミトイルトリペプチド-1、パルミトイルテトラペプチド-7（すべて整肌）　※７：DNA-Na

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

「ELEKI LIFT PRO」をBJCの販路で発売し、販路・商品開発の両面でシナジーが具体化
ECモールでのBJC商品の売上伸長に加え、物流拠点の一部統合でコスト最適化も進展

		現在の進捗状況
 新商品・新ブランドの開発	両社の開発知見を結集し新商品・新ブランド創出を推進 インフルエンサー連携と複数チャネル活用でトレンド創出を加速	両社の知見を結集し、サロン専売モデル「Brighte PRO」シリーズを共同開発
 両社既存チャネルの活用	販売チャネルの相互活用により国内販路の拡大を推進 価格帯・商品ラインナップのシナジーを活かしクロスセルを促進	サロン専売モデル「ELEKI LIFT PRO」をBJCの販路で9月30日から発売開始
 海外展開の加速	双方の販売網を活用し海外展開の加速を推進 展開エリアのシナジーを活かしグローバル成長を促進	海外展開に向けて準備継続
 マーケティング、CS対応の統合・高度化	マーケティング・CSの統合により運営高度化を推進 「SELL」によるデータ活用高度化で販売戦略を最適化	ECモールにおけるBJC商品の売上が大きく伸長（前年同期比2.34倍、2026年 7 - 9 月）
 バックオフィス、OEM、物流・在庫管理のコスト削減	物流・在庫・OEM・バックオフィス統合でコスト削減を推進 調達力強化と業務効率化により原価低減と収益性向上を実現	BJCがCHARIS&Co.を吸収合併（10/1付） 物流拠点を一部統合しコスト最適化

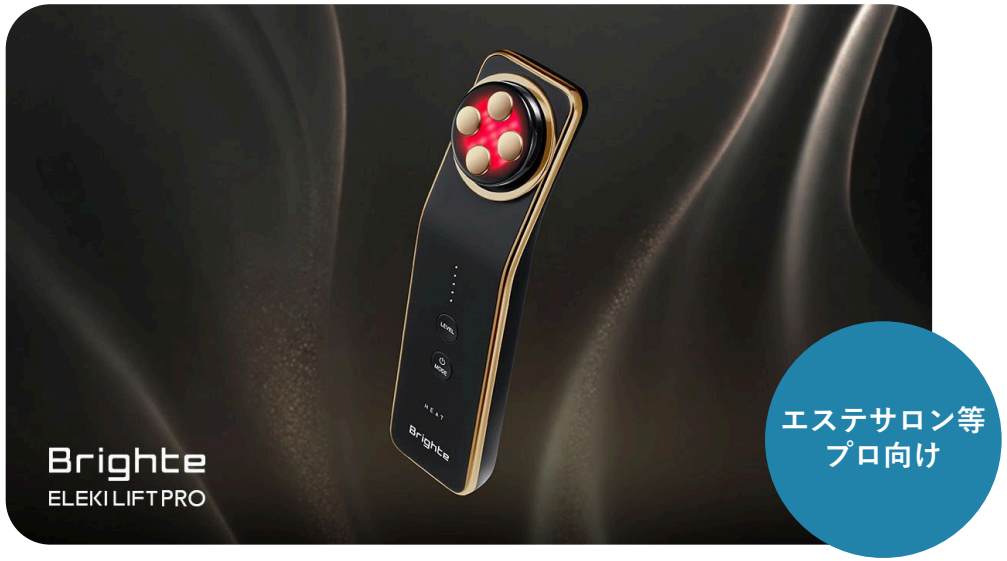
Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

人気リフト美顔器「ELEKI LIFT」をサロン向けにアップデートした初のサロン専売モデルを発売
ブランド史上最高出力のEMS※1と最大4MHzのRF※2を搭載し、サロンという新たな販路を開拓

2026年９月30日～

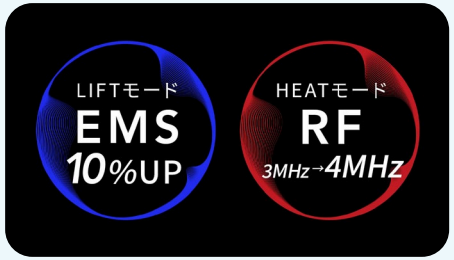
シリーズ累計販売個数200万個を突破した美容家電ブランドBrighteから、ブランド初となるサロン専売モデル「ELEKI LIFT PRO」が登場

従来のCLEAN（クリーン）・LIFT（リフト）・HEAT（ヒート）の３つのモードはそのままに、Brighte史上最高出力のEMS※1、最大4MHz RF※2をはじめとした豊富な機能を搭載。LIFTモード・HEATモードの出力レベルを10段階に細分化することで、一人ひとりの肌状態や体感に合わせた、きめ細かな施術をサポート



商品特長

1. Brighte史上最高出力EMS※1＆最大4MHzRF※2を搭載
2. 10段階のレベル設定で、一人ひとりに合わせた施術をサポート
3. 高級感と使いやすさを兼ね備えたプロフェッショナル仕様デザイン



※１：従来品と比べた出力差の最大値
※２：ELEKI LIFT（一般発売品）との出力W数（RF出力時）の比較（Aiロボティクス調べ）

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

当社とBJCが日本最大級の美容見本市「ビューティーワールド 大阪 2026」に共同出展
サロン向けにBrighteを展示し、連日多くの美容関係者が訪れるなど盛況

Beautyworld Japan（BWJ）とは

1998年開始の日本最大級のBtoB総合ビューティ見本市。
来場者の約７割がサロン関係者※１

68,174名
来場者数※１

820社超
出展社数※２

３日間
インテックス大阪

BJCブース

- サロン向けにBrighteを展示
- 連日多くの美容関係者が来場し、各ブースともに盛況

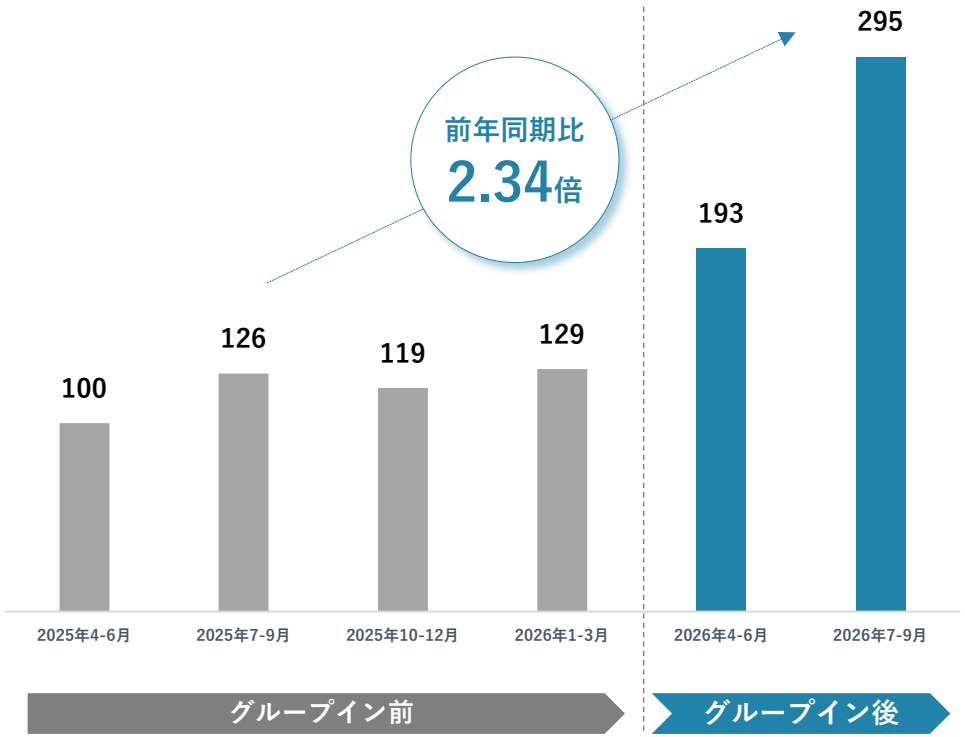


※１：2025年４都市開催の合計
※２：出展社数は主催者による開催前発表
出所：メッセフランクフルト ジャパン、エステティックジャーナル（2026年５月）

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

当社のEC領域におけるマーケティング知見の共有をはじめとするPMI施策が奏功し、売上の伸長が続き、モールランキングで好成績を記録

BJC ECモール四半期売上高推移※1



ECモールランキング



soaddicted Lashaddict®

amazon
プライム感謝祭
ベストセラー 1 位
まつげ美容液・マスカラ下地カテゴリ

Qoo10
メガ割
総合デイリー 最高 11 位※2

※1 各バーの数値は2025年４-６月の売上高を100とした指数。前年同期比は2026年７-９月の実額ベース
※2 9月7日にランクイン

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

BJCによるCHARIS&Co.の吸収合併と物流拠点の一部統合で、グループのコスト構造を最適化
重複する管理機能・拠点を集約し、利益率の改善につなげる

バックオフィス

BJCがCHARIS&Co.を吸収合併

取組み

2026年10月１日付で完了
管理部門・管理業務を集約

効果

管理コストの削減

重複する間接業務・費用を解消

OEM

BJCのOEMで当社商品を開発

取組み

BJCのOEM機能を活用し、
当社ブランドの商品を開発

効果

開発・製造コストの低減

グループ内で開発し、外部委託を抑制

物流

当社とBJCの物流拠点を一部統合

取組み

重複する拠点を集約し、
保管・配送コストを最適化

効果

物流コストの削減

保管・配送を一元化し、効率を向上

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

- エグゼクティブサマリー
- 2027年３月期 第２四半期決算概要
- 2027年３月期 通期業績予想の修正
- 下期の取組み
- APPENDIX

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

Aiロボティクスという社名は、AIとRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を搭載した AIシステム『SELL(セル)』により業務を自動化していることに由来

会社名	Aiロボティクス株式会社
設立	2016年４月
上場日	2024年９月27日（東証グロース市場）
代表者	代表取締役社長　龍川 誠
所在地	東京都港区六本木六丁目10番１号
資本金等	17億6,097万円（資本準備金含む）
従業員数	40名（単体、2026年９月末時点）
事業内容	AIを活用したブランド開発・運営

JPX 東証上場 CODE:247A



Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

貸借対照表

（単位：百万円）	2026.3月期（単体）	2027.3月期２Q（連結）
資産合計	18,431	50,851
流動資産	17,598	28,386
固定資産	827	22,464
うち、のれん	–	20,912
繰延資産	4	1
負債合計	12,380	45,272
流動負債	9,111	42,138
固定負債	3,269	3,133
純資産合計	6,049	5,579
自己資本比率（%）	32.8	11.0

※百万円未満切捨て

キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2026.3月期２Q（単体）	2027.3月期２Q（連結）
営業CF	▲2,503	▲3,197
投資CF	▲182	▲22,667
FCF	▲2,686	▲25,864
財務CF	1,616	30,859
現金同等物の増減額※	▲1,070	5,020
現金同等物の期末残高	2,861	9,007

※現金同等物の増減額には換算差額を含む

損益計算書

（単位：百万円）	2026.3月期２Q（単体）	2027.3月期２Q（連結）
売上高	10,542	22,721
売上総利益	7,991	14,336
販管費	7,290	14,242
営業損益	701	93
経常損益	686	▲319
中間純損益	468	▲534

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.

- 本プレゼンテーション資料は、関連情報の開示のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の買付けまたは売付け申込みの勧誘を構成するものではありません。米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本プレゼンテーション資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開または利用することはできません。将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

Copyright © 2026 Ai ROBOTICS INC. All Rights Reserved.